

第 395 回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《 プログラム・抄録 》

日 時：令和 2 年 12 月 12 日（土） 15 時 00 分
会 場：新潟グランドホテル 3 階『悠久の間』
新潟市中央区下大川前通 3 ノ町 2230 番地
TEL：025-228-6111

次回 第 396 回 新潟地方会 予告

日時：令和 3 年 3 月 13 日（土） 午後 3 時

会場：未定

演題申込期限：令和 3 年 2 月 19 日（金曜日）

※すべて PC のみの発表とさせていただきます
※一般口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025 (227) 2289 / FAX：025 (227) 0784
会長 富田 善彦

15:00~16:10

座長 山崎 裕幸

1. 壊疽性膿皮症による陰茎海綿体膿瘍の一例

長岡赤十字病院 泌尿器科¹⁾、膠原病内科²⁾
若杉優樹¹⁾、中山亮¹⁾、鈴木一也¹⁾、米山健志¹⁾、佐伯敬子²⁾

症例は62歳男性。X年4月より疼痛を伴う陰茎根部腫瘍を自覚し、徐々に4cmまで増大。造影CTにて陰茎海綿体膿瘍の診断となった。陰茎膿瘍を穿刺排膿するも再増大し、膿培養や細胞診は陰性であった。排尿痛や尿閉も出現し、X年8月に切開排膿術を施行。膿瘍壁の組織診断は非特異的肉芽組織であった。硬結は縮小せず、術後11日目より炎症反応上昇、下肢関節痛が出現したため、壊疽性膿皮症が疑われ、プレドニゾロンとコルヒチンにて、下肢関節痛は改善し、陰茎膿瘍も縮小した。

2. ニボルマブ、イピリムマブ投与後に皮膚障害、サルコイド反応、肝障害を呈した転移性腎癌の一例

新潟県立中央病院 泌尿器科¹⁾、病理診断科²⁾、柏崎総合医療センター 泌尿器科³⁾
池田多朗¹⁾、星野華奈³⁾、酒井剛²⁾、山崎裕幸¹⁾、水澤隆樹¹⁾、片桐明善¹⁾

症例は59歳、男性。検診で胸部レントゲン異常を指摘され精査の結果、左腎癌、多発肺転移と診断された。MSKCC: Intermediate Riskで、左腎摘後にニボルマブ、イピリムマブを併用した。3コース目で肺転移はほぼCRとなったが、同時期に皮疹、縦隔リンパ節腫大を認め、原因としてサルコイド反応が疑われた。サルコイド反応に伴う合併症を認めないため経過観察とした。また後に肝障害を認めたため8コース目でニボルマブを中止したが、縦隔リンパ節は縮小し再発なく経過している。

3. 成人発症のシスチン結石症の1例

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科
渡邊和博、原昇、西山勉

57歳男性で、今回まで尿路結石を指摘されたことはなかった。2019年7月に近医で左腎結石を指摘され当科を受診した。左腎に径3cmの結石を認め、腎盂腎杯の拡張も認めた。右腎結石も認めた。同9月に左TULを行うも、アクセスシースが挿入できず、破碎は不十分であった。同10月左ESWLも行うも破碎は不十分であった。右腎石もやや増大傾向を認めたため、2020年1月に右TULを行った。左腎結石の増大を認めたため、同4月に2度左PNLを行った。結石分析を行い、シスチン結石であった。尿中アミノ酸分析ではシスチン、オルニチン、リシン、アルギニンの異常高値を認め、シスチン尿症と診断した。

4. 新潟県立中央病院における上部尿路上皮癌手術症例の検討

新潟県立中央病院 泌尿器科
山崎裕幸、池田多朗、水澤隆樹、片桐明善

2010年1月から2020年1月の間に、上部尿路上皮癌の診断で腎尿管全摘除術を施行した97例を後方視的に調査した。腎盂癌が49例、尿管癌が40例、腎盂尿管癌が8例でcTxN0-2M0症例を対象とした。年齢中央値74歳(49-86)、男性69例、女性28例。開腹64例、ラパロ(Retro)33例、尿管処理はpluck法を66例、cuff切除を7例、膀胱開放を24例に施行、リンパ節郭清は34例に施行した。術後52例に再発を認め、癌死は14例であった。当院での手術症例につき検討を行った。

5. 左回腸導管の1例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学¹⁾、消化器・一般外科学²⁾

武田啓介¹⁾、笠原隆¹⁾、丸山亮¹⁾、石川晶子¹⁾、風間明¹⁾、松本瑛生²⁾、中野雅人²⁾、島田能史²⁾、若井俊文²⁾、富田善彦¹⁾

膀胱全摘・回腸導管増設時に右下腹部を皮膚ストーマ部位の標準術式とするのは解剖学的に蠕動方向に沿って自然とされるからである。しかし稀に右下腹部にストーマを置くことが困難な場面が予想される。当院で、虫垂癌の膀胱・右腹壁浸潤・膿瘍形成 cT4bN2aM0 stageIIIc に回盲部切除、D3 郭清、腹壁部分切除、膀胱全摘を行った症例に対して、左回腸導管造設術を行った。術後腎盂腎炎を1回発症したが、イレウスなど腸管関連合併症やストーマトラブルの発生無く、術後52日目に退院した。左側回腸導管は報告が殆ど無いが、腸間膜血流を適切に保てば安全に行える術式と考えられた。

6. 腎細胞癌全身治療の選択 2020

新潟大学 腎泌尿器病態学分野

山名一寿、富田善彦

急速な速度で進化している進行性腎細胞癌の薬物療法は、確固たる地位を築いた分子標的治療(主に VEGF-TKI の単独療法)から移行期を迎えている。現在3つの複合免疫療法が臨床の場で使用可能となったが、これらを直接比較したエビデンスはなく、また有用なバイオマーカーもない。さらに新世代の TKI であるカボザンチニブも使用可能となり、逐次療法においても新たなアプローチが必要である。今後も新規治療が認められる見込みであるが、現状について整理したい。

7. 新潟県における検診発見前立腺がんの実態調査 (第1報)

新潟県前立腺がん検診検討委員会

斎藤俊弘、小松原秀一、羽入修吾、波田野彰彦、片桐明善、米山健志、原昇、笠原隆、富田善彦

前立腺癌の診断における PSA 検診の寄与について検討するため、県内多施設の御協力のもと2019/10/01 から2020/09/30 の1年間に新規診断した前立腺癌の全例調査を行った。現時点で集積できた1158例をもとに第1報として報告する。対策型検診(住民検診+職場検診)を契機に発見された症例は497例であり、そのうち有転移症例は31例(6.2%)であった。それ以外の661例においては有転移症例が200例(30.3%)と有意に多く($p<0.001$)、対策型検診によってより早期の癌が発見されていることが示された。

《 休 憩 16:10~16:40 》

16:40~17:30

新潟泌尿器科同窓会総会

《 会場：悠久の間 》

同窓会総会終了後 Niigata Urology Seminar 2020 が予定されています。

Niigata Urology Seminar 2020

日時：2020年12月12日(土)17:50～19:05

会場：新潟グランドホテル 3階 『悠久の間』

住所：新潟市中央区上大川前通3ノ町 TEL 025-228-6111

座長

新潟大学特命理事 医歯学総合病院長（泌尿器科教授）

富田 善彦 先生

◆General Lecture 17:50～18:05

『エンザルタミドによる全身倦怠感軽減についての検討』

演者

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学 助教

丸山 亮 先生

◆Expert Lecture 18:05～19:05

『遠隔転移を有する前立腺癌治療のパラダイムシフト』
～薬物療法と局所治療の使いどころ～

演者

学校法人北里研究所 北里大学医学部 泌尿器科学 講師

田畑 健一 先生

※田畑先生のご講演は神奈川県からリモート形式で配信予定です

共催：日本泌尿器科学会新潟地方会、アステラス製薬株式会社

研究会参加者健康チェック票

研究会名：第395回日本泌尿器科学会新潟地方会

日 時：2020年12月12日（土） 15：00～

所 属：_____

氏 名：_____

自宅電話番号：_____

チェック日	体温 (°C)	症 状※									
		朝	咳	のどの 痛み	鼻水・ 鼻詰り	頭痛	下痢・ 腹痛	強い だるさ	息苦しさ	その他	左記 すべて無
1日目	11月29日										
2日目	11月30日										
3日目	12月1日										
4日目	12月2日										
5日目	12月3日										
6日目	12月4日										
7日目	12月5日										
8日目	12月6日										
9日目	12月7日										
10日目	12月8日										
11日目	12月9日										
12日目	12月10日										
13日目	12月11日										
14日目	12月12日										

自ら行った対処 { _____ }

(例) ○月○日医療機関を受診した, ○月○日に保健所に連絡した, ○月○日市販薬を内服した, などを

※ 症状の各項目に, ある場合は○, すべて該当しない場合には「左記すべて無」に○を付けてください。